第三中

自ら課題を見つけ、自ら学ぶ生徒の育成

～「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを通して～（３年計画の１年次）

校長　　前田　篤志

１　研究主題について

「主体的な学び」の実現のためには、生徒自身が目的意識をもち、考えることを楽しいと認知したり、学びの必要性を感じたりする授業づくりが必須である。

この「主体的な学び」を促すために、昨年度は生徒それぞれの疑問や考え、感想を共有し、そこでの気づきを元に自己の学習に意欲的に取り組む生徒の育成のために、学習活動場面の設定や一人一台端末の活用を意識した授業づくりに取り組み、一定の成果を得た。

今年度は、生徒それぞれの疑問や考えを「問い」とし、解決に必要な知識を得ながら、「問い」の解決のために見通しをもって粘り強く取り組むことと、学習活動の振り返りを通して生徒自身の学びを深めることができる授業づくりに取り組む。

「問い」をもつためには内発的な動機が必要である。授業においてその動機を喚起させ、解決に向かわせることによって「主体的な学び」が実現される。その学びに実感が伴うことで「社会に存在する課題を発見し、的確に捉える力」「1つの結論を導き出してもその先にある新たな課題に向かっていく力」と言った自ら問いを立てる力が育成されると考える。

２　研究のねらい

課題提示の文言や指導方法を工夫することにより、生徒自身の内発的な動機を根拠とした問いを、対話することを通して解決したり、自己の考えを広げたり深めたりすることができる生徒の育成を図る。

３　研究仮説

授業における学習課題提示や対話的な学習場面を工夫することによって、必要な知識を習得しながら知識的裏づけをもって問いを立て、その「問い」を探究心をもつて解決し、さらに「問い」繰り返すことで、問いと探究が相互に関わって生徒自身の学習内容に高まりがみられる。それらを積み重ねることにより、「何かわからないことや困ったことがあったときに、どこに問題があるかを主体的に考え、対話を通して解決し、学びへの意欲をもつことができる」生徒が育成されると考える。

４　研究内容

⑴　授業における取組

ア　授業の中で、生徒が自ら「問い」を見つける課題設定や発問の文言を工夫する。

イ　問いに対しての答えを導くために必要な情報収集を意識して授業を設計する。

ウ　対話場面を活用し、 自身の問いの最適解や学習の深まりを確認する場を設定する。

⑵　校内研修による検証

ア　教科部会で、「問い」の場の設定にむけた発問の文言や授業設定を研究し、授業研究を通して検証する。

イ　各教科の「見方・考え方」や教科の特性を生かした授業の相互参観を行い、その学びを自己の指導に取り入れる。

⑶　効果的な「問い」の立てさせ方、ファシリテーターとしての視点の持ち方などについて、外部講師を招いての研修を行う。

５　研究の経過

⑴ 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	例）学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
5	29	第１回小・中ジョイントスクール推進事業授業公開
9	26	第１回授業研究（要請訪問） ２学年　授業者　教諭　佐々木昌彦　「蒸散量の測定」
11	22	第２回授業研究（要請訪問） ３学年　授業者　教諭　藤田亜実　「中学生に必要な栄養を満たす食事」

⑵ 一般研修

月	日	例）内容・講師・概要等
5	26	「生徒が自ら課題を見つけ、自ら学ぶための手立てについて」 八戸市立白銀南中学校　　教諭　葛西良子　氏
8	21	・青森県中学校教育課程研究集会「１人１台端末の活用場面について」 ・「1 人 1 台端末操作研修」 株式会社ビジネスサービス　西股和仁　氏
8	22	「思春期という時期を踏まえた特別な教育的ニーズのある生徒への理解と対応」 八戸学院大学短期大学部　教授　野口和也　氏
2	21	「個々の特性の強い生徒への対応」 八戸学院大学短期大学部　教授　野口和也　氏

６　研究の成果

⑴　授業研究を２回実施し、授業研究の際には、教科部会および研修部会でよりよい課題設定について研究を行った。授業後の研究協議では、問いを生む課題提示や課題設定や発問について研修し、授業改善に生かすことができた。

⑵　白銀南中学校葛西良子先生を講師に招き、生徒が自ら課題を見つけ自ら学ぶための手立てについて研修した。授業や単元の振り返り、テストの自己分析等について、講師の実践発表から学ぶことができた。また、主体的に学習に取り組む態度の評価については、実践だけでなく生徒の変容の具体例を示していただいたことで、より実感を伴った研修をすることができた。

⑶　特別支援教育について、特別な支援を要する生徒の理解と対応について研修した。発達障害本来の特性とそうでないものについて再確認し、思春期にある生徒への関わり方について研修することができた。

７　研究の課題

⑴　自ら課題を見つけ自ら学ぶ生徒の育成を目指して取り組んだが、生徒自身が問いを見つけて解決に向けて取り組ませるには、生徒が問題を発見するようなしかけについてさらに研究が必要である。また、生徒に解決に向けた必要感や切実感を自分事としてもたせ、粘り強く課題解決に取り組ませることについても研究を深めたい。

⑵　特別支援教育の視点を生かした生徒との関わり方について研修したが、発達障害の特性が強かったり、本人の学びにくさが目立ったりする生徒への言葉がけや支援のしかた、環境づくりについてはさらに研修を進めたい。

（記入者　　大橋　忍 ）